

研究主題

学力向上を図るための指導に関する研究

— 学ぶ意欲を高め、よりよい学び方を身に付けさせるための授業改善資料の開発 —

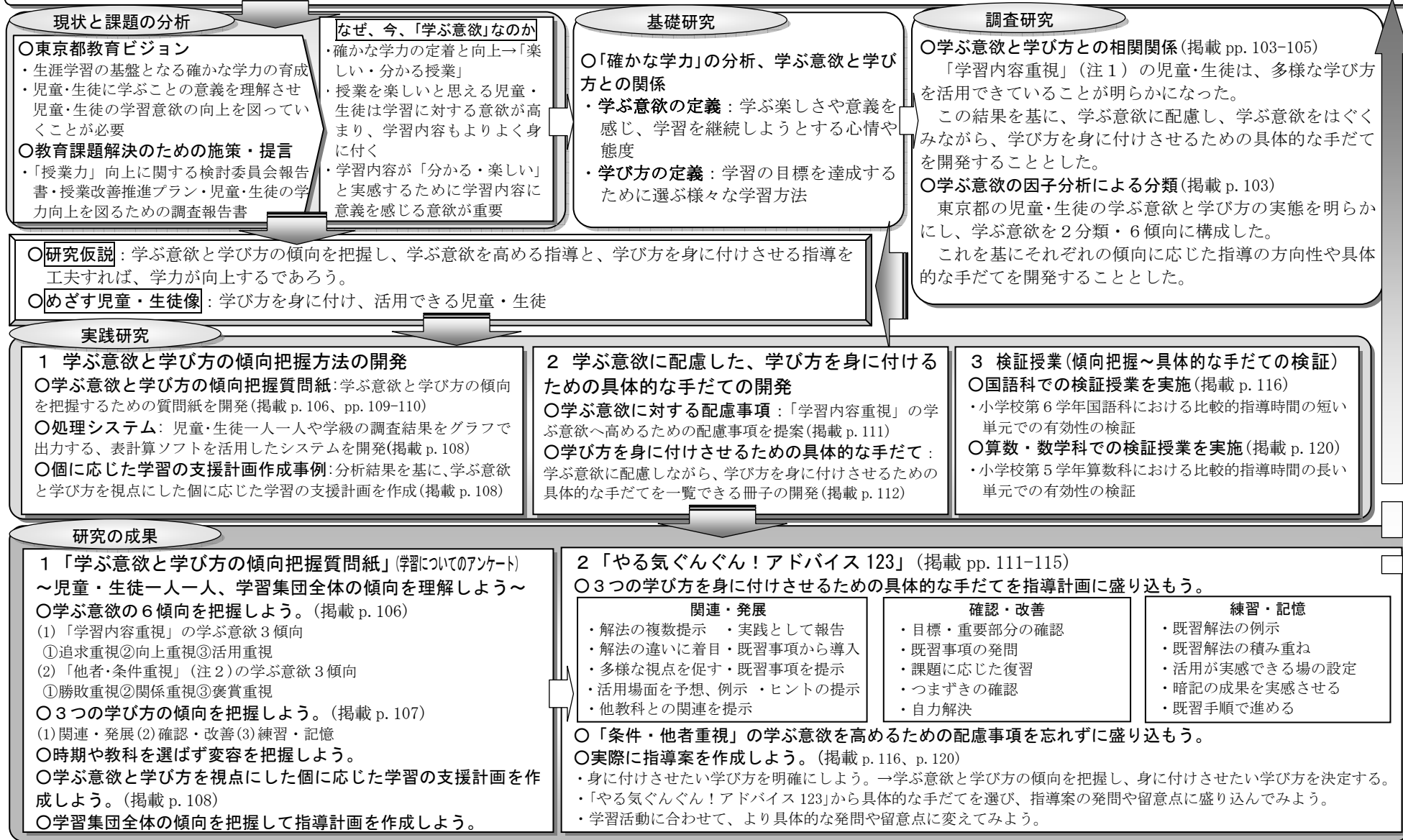
目次

研究の概要	100
I 研究の背景とねらい	101
II 研究の方法	
1 基礎研究	102
2 調査研究	102
3 実践研究	102
III 研究の内容	
1 研究仮説	102
2 学ぶ意欲のとらえ方	102
3 学び方のとらえ方	104
4 学ぶ意欲を高め、よりよい学び方を身に付けさせるための授業改善資料の開発	105
IV 日々の授業に活用できる「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」(学習についてのアンケート)の開発	
1 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」の活用にあたって	106
2 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」の調査結果分析方法	107
V 日々の授業に活用できる「やる気ぐんぐん! アドバイス 123」の開発	111
VI 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」と「やる気ぐんぐん! アドバイス 123」を活用した学習展開例	
1 国語科の事例	116
2 算数・数学科の事例	120
VII 研究のまとめと今後の課題	
1 研究のまとめ	124
2 今後の課題	124

＜研究の成果と活用＞

- 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」(学習についてのアンケート)の開発
 - 児童・生徒一人一人や学習集団全体の学ぶ意欲・学び方の傾向が具体的に把握できる。
 - グラフなどに表すことで、児童・生徒一人一人や学習集団全体の学ぶ意欲の傾向や変容を視覚的にもとらえることができる。
 - グラフなどに表すことで、児童・生徒一人一人や学習集団全体の学び方の定着具合がとらえやすくなり、具体的な学習活動の工夫を考えることができる。
 - 個に応じた学習支援計画を立てることができる。
- 「やる気ぐんぐん! アドバイス 123」の開発
 - 児童・生徒によりよい学び方を身に付けさせるための具体的な手だてが分かる。
 - 児童・生徒の意欲的な活動を促す発問、助言などが分かり、日々の授業の中で活用することができる。
 - 発問、助言を有効にする学習形態が分かる。
 - 児童・生徒一人一人や学習集団全体の学ぶ意欲や学び方の傾向に合わせて、具体的な手だてを組み合わせる指導することができる。

研究のねらい ○指導力・授業力向上のための授業改善 ○学ぶ意欲を喚起しはぐくむための具体的な指導資料の開発 ○授業改善推進プランの具現化



(注1) 学習内容重視：学習すること自体(学ぶことや学習内容)に学ぶ意義や価値を感じる。

(注2) 他者・条件重視：学習以外(他者・条件など)に学ぶ意義や価値を感じる。

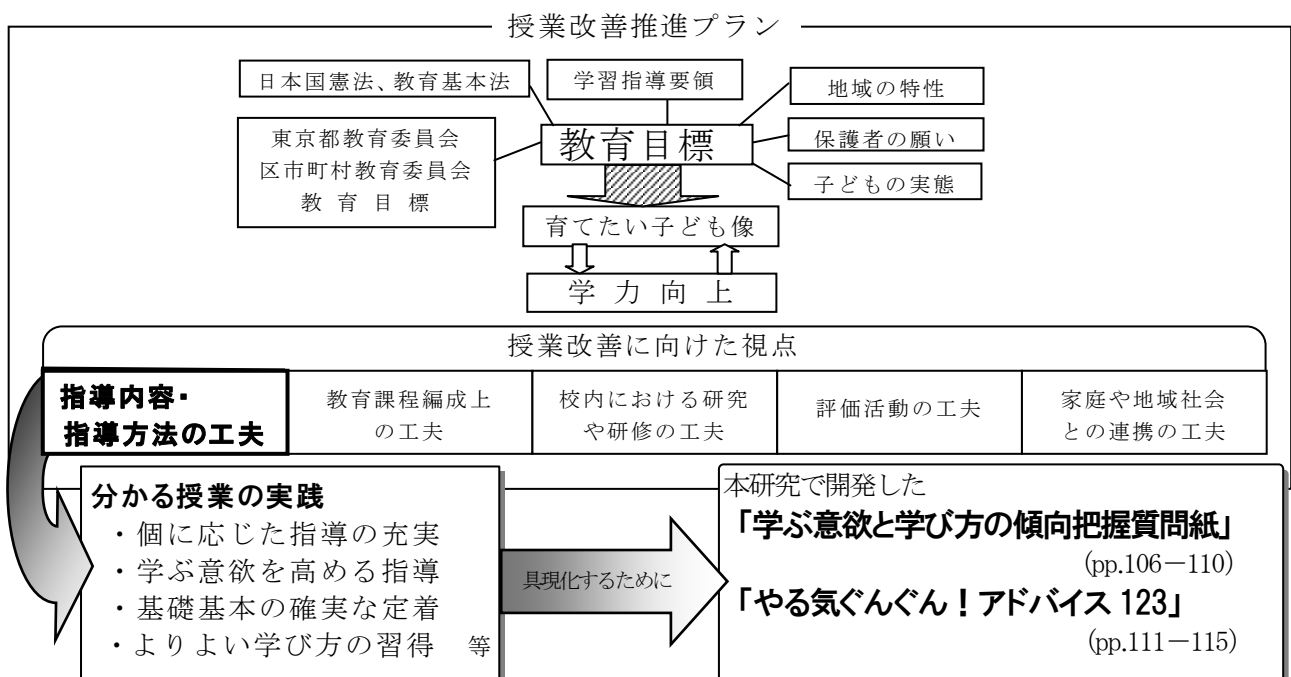
I 研究の背景とねらい

子どもたちに求められる学力としての「確かな学力」とは、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力・学ぶ意欲などを含むものである。ところが、子どもたちの学力の現状をみると、判断力や表現力が十分に身に付いていない、学ぶ意欲が必ずしも高くない、学習習慣が十分身に付いていないなどの課題があることが各種調査結果から指摘されている。このような背景から、本研究においては、研究主題を「学力向上を図るための指導に関する研究」とし、児童・生徒に「確かな学力」を身に付けさせるための指導の在り方について明らかにしたいと考えた。

東京都教育委員会の「東京都教育ビジョン」（平成 16 年 4 月）では、一人一人の個性・能力を伸ばすことや学ぶことの意義を理解させるとともに、学ぶ意欲の向上を図っていくことが提言された。また、東京都教育委員会の「平成 15 年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」においては、「授業を楽しみと思える生徒は学習に対する意欲が高まり、その結果としてよく学び、また、学習内容もよりよく身に付く」と分析しており、平成 16 年度と同報告書においても同様の分析をしている。いずれも、学ぶ意欲を高めることが学力向上につながることを示していると考えられる。これらの調査・研究を受け、本研究においては、研究の視点を「学ぶ意欲を高め、よりよい学び方を身に付けさせるための授業改善資料の作成」とし、児童・生徒の学ぶ意欲を高める指導の在り方についての研究を進めることにした。

さらに、平成 16 年度には東京都のすべての公立中学校で、平成 17 年度には東京都のすべての公立小・中学校で「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析・考察に基づき、「授業改善推進プラン」を作成している。「授業改善推進プラン」には、全教科についての指導方法の課題分析と具体的な改善策や、具体的な指導内容や指導方法が盛り込まれており、それを実践していくことが重要である。そこで本研究では、児童・生徒に「確かな学力」を身に付けさせるための「授業改善推進プラン」の具現化に向け、日々の授業で活用できる具体的な授業改善資料の開発を行うことを研究のねらいとした。

図 1 授業改善推進プランと本研究との関連



Ⅱ 研究の方法

1 基礎研究

- 「確かな学力」の分析を行い、「学ぶ意欲」と「学び方」との関係を明確にした。
 - ・文部科学省、「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）2003 年調査国際結果報告書」、東京都教育委員会などの公的な調査報告書を基に、確かな学力を構成する要素の内容を明確化した。
 - ・OECD-PISA2003 年調査の報告や市川伸一氏、桜井茂男氏らの先行文献、先行研究より「学ぶ意欲」と「学び方」との関係を明らかにした。

2 調査研究

- 以下の内容についての調査やその結果分析などを行った。
 - ・学ぶ意欲と学習や自分に対する自信との相関関係
 - ・学ぶ意欲と学び方との相関関係
 - ・学ぶ意欲の因子分析による分類など

3 実践研究

- 学ぶ意欲と学び方の傾向の把握方法を開発した。
 - ・「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」（学習についてのアンケート）を活用した調査の結果に基づき、児童・生徒一人一人や学習集団全体の傾向をグラフで表し、個に応じた学習の支援計画を作成した。
- 学ぶ意欲をはぐくみながら学び方を身に付けさせるための具体的な手だてを開発した。
- 検証授業を、小学校第 5 学年算数科、小学校第 6 学年国語科で実施した。

Ⅲ 研究の内容

1 研究仮説

学ぶ意欲が高い児童・生徒は、多様な学び方が身に付いているという基礎研究や調査研究を踏まえて、学ぶ意欲を高めながら学び方を身に付けさせることが、児童・生徒の学力向上に有効ではないかと考えた。

そして、学ぶ意欲や学び方を分析的にみることによって、児童・生徒一人一人の傾向を把握することができ、一人一人に応じた指導ができるのではないかと考えた。

そこで、次のような研究仮説を設定し、研究を進めることとした。

学ぶ意欲と学び方の傾向を把握し、学ぶ意欲を高める指導と、学び方を身に付けさせる指導を工夫すれば、学力が向上するであろう。

2 学ぶ意欲のとらえ方

(1) 学ぶ意欲の2分類・6傾向

学ぶ楽しさや意義を感じることで、学習内容が分かるという満足感につながる。また、生涯を通して学び続けるためには、学習を継続させる心情や態度が重要であると考えた。

そこで、本研究では、学ぶ意欲を次のように定義した。

学ぶ楽しさや意義を感じ、学習を継続しようとする心情や態度

そして、市川伸一氏らの先行文献などの基礎研究や調査の分析結果を基に、学ぶ意欲を学習

すること自体に学ぶ楽しさや意義を感じているかどうかにより、次の2つに分類した。

- ① **学習内容重視**：学習すること自体（学ぶことや学習内容）に学ぶ意義や価値を感じる。
 ② **他者・条件重視**：学習以外（他者・条件など）に学ぶ意義や価値を感じる。

さらに、児童・生徒一人一人の学ぶ意欲の傾向を把握し、一人一人に応じた手だてがより効果的にできるように、6つの傾向に分類した（表1）。

表1 学ぶ意欲の2分類・6傾向

学習内容重視	
追求重視	「分かった楽しいから」「よくがんばったな、という気持ちになれるから」「新しいことを知りたいから」などと思って学習する。
向上重視	「いろいろな面からものごとを考えられるようになるから」「頭の訓練になるから」「無駄のない考え方ができるようになるため」などと思って学習する。
活用重視	「生活の中で役に立つから」「いずれ仕事で役に立つと思うから」「勉強しないと将来仕事の上で困るから」などと思って学習する。
他者・条件重視	
勝敗重視	「友達に負けたくないから」「まわりの人と同じくらいにできないのは悔しいから」「立派な人だと思われるから」などと思って学習する。
関係重視	「まわりの人たちが勉強するから」「友達と一緒にいたいから」「みんながやるから何となく」などと思って学習する。
褒賞重視	「シールやスタンプがもらえるから」「おこづかいやごほうびがもらえるから」「親や先生にしかられたくないから」などと思って学習する。

(2) 学ぶ意欲を高める

学ぶ意欲を高めることを、次のようにとらえた。

「学習内容重視」の学ぶ意欲をもたせること

なぜなら、授業を通して学ぶ「楽しさ」を実感するためには、学習内容そのものに学ぶ意義や価値を感じながら学習できることが重要であると考えたからである。

また、学ぶ意欲を高める指導の際には、児童・生徒の学ぶ意欲の傾向を固定的にとらえないようにすることが重要であり、次のことに留意する必要がある。

- 学ぶ意欲は日々の学習の中で様々に変容していくこと
- 一人の児童・生徒にも教科や学習の状況によって異なる傾向が見られる場合もあること
- 一人一人の児童・生徒が複数の傾向を同時にもち合わせていることもあり得ること

そして、一人一人の学ぶ意欲の傾向を把握し、一人一人の学ぶ意欲に応じた指導を工夫していくことが重要である。

例えば、「褒賞重視」の児童・生徒には、学習の進捗を確かめ次への励みとなるようにカードにシールを貼ったり、「関係重視」の児童・生徒には、仲のよい友達と協力し合えるような学習形態にしたりしていくことなどが、学ぶ意欲をはぐくむための有効な手だての一つと考えられる。しかし、そのような手だてだけでは、「シールを集めたいから」「仲のよい友達と一緒にだから」などが学習する理由になってしまい、「学習内容重視」の学ぶ意欲をもたせることは難しい。シールが集まったことではなく、学習内容が身に付いたことに対して評価するような言葉かけや、「学習内容重視」の友達との活動場面も設定していくなどの工夫が必要である。

一方、学習内容自体が楽しいと思って学習している「追求重視」の児童・生徒についても、学習内容そのものに学ぶ意義や価値が感じられるよう、指導や評価の工夫を図っていく必要が

ある。

確かな学力を育成し生きる力をはぐくむためには、児童・生徒に生涯を通じて主体的に学び続けることができる力を育成することが必要であり、「学習内容重視」の学ぶ意欲をもたせることが重要である。そして、学び方を身に付けさせることが、主体的に学び続けていく力の育成につながると考えた。

3 学び方のとらえ方

(1) 3つの学び方

本研究では、学び方を、次のように定義した。

学習の目標を達成するために選ぶ様々な学習方法

学習の進め方を身に付けるだけではなく、児童・生徒が学習内容の理解を深め、主体的に学習を進めていくために必要な様々な方法を、自ら進んで選択できる力を身に付けていくことが重要であると考えた。そして、「OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2003」などの基礎研究を基に、児童・生徒に身に付けさせたい学び方を次のように整理した (表2)。

表2 3つの学び方

学 び 方 1	関連・発展
	既習事項を新しい学習内容や学習課題と関連付けながら、考えたり解決したりする。
	(1) 一つの方法で問題が解けても、他にも解き方がないかどうかを考える。
	(2) 学習したことが、学習場面を含めた日常生活において使えるかどうかを考える。
学 び 方 2	(3) 新しいことを学習するときは、今までに学習したことを思い出す。
	(4) 学習したことが他の教科や学習でも使えるかどうかを考える。
	確認・改善
	学習を振り返り、自分が達成できたことや課題に気づき、新たな目標をもつ。
	(1) この学習で何を学ぶのかを理解する。
(2) 前に学習したことを覚えているかどうかを確認する。	
(3) 学習するときは、自分が分かっていないのはどこなのかを確認する。	
(4) 分からないことがあったときは、自分で調べて解決する。	
(5) 一番大切だと思う部分を、繰り返し復習する。	
学 び 方 3	練習・記憶
	練習によって、知識や記憶を定着させたり、技能を高めたりできる。
	(1) 以前に取り組んだ問題については、解決の見通しをもつことができる。
	(2) 自分が必要と判断したことを記憶する。
(3) 例題に何度も取り組み、解き方を覚える。	
(4) 解決するための手順を覚える。	

(2) 学び方を身に付けさせる

調査から「学習内容重視」の学ぶ意欲をもつ児童・生徒には、表2「3つの学び方」に示した学び方が比較的良好に身に付いているという結果を得た。このことから、学び方が身に付けば、児童・生徒が主体的に学習を進めることができるとともに、学ぶ意欲のさらなる高まりにもつながると考えた。そして、3つの学び方を身に付けることが、学力の向上につながると考えた。

そこで、「他者・条件重視」の学ぶ意欲を「学習内容重視」の学ぶ意欲へと高めるためには、

学ぶ意欲を高めるための配慮をしながら、学び方を身に付けさせることが有効であると考えた。例えば、児童・生徒が自らの進歩を実感できるような工夫をしたり、学習内容が身に付いたことを価値付ける工夫をしたりすることなどが、「他者・条件重視」の学ぶ意欲を高めるための配慮として重要である。また、「学習内容重視」の学ぶ意欲をさらに高めるためには、今もっている「学習内容重視」の学ぶ意欲をはぐくみながら、多様な学び方を身に付けさせることが有効であると考えた。

4 学ぶ意欲を高め、よりよい学び方を身に付けさせるための授業改善資料の開発

本研究では、目指す児童・生徒像を「学び方を身に付け、活用できる児童・生徒」とした。そして、児童・生徒一人一人の学ぶ意欲を高めるための配慮をしながら、「学習内容重視」の学ぶ意欲へ高め、学び方を身に付けさせるための具体的な手だてとして以下の2つを開発した。

なお、本研究の成果を生かし、「授業改善推進プラン」を具現化するまでの流れを図2に示した。

(1) 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」(学習についてのアンケート)の開発

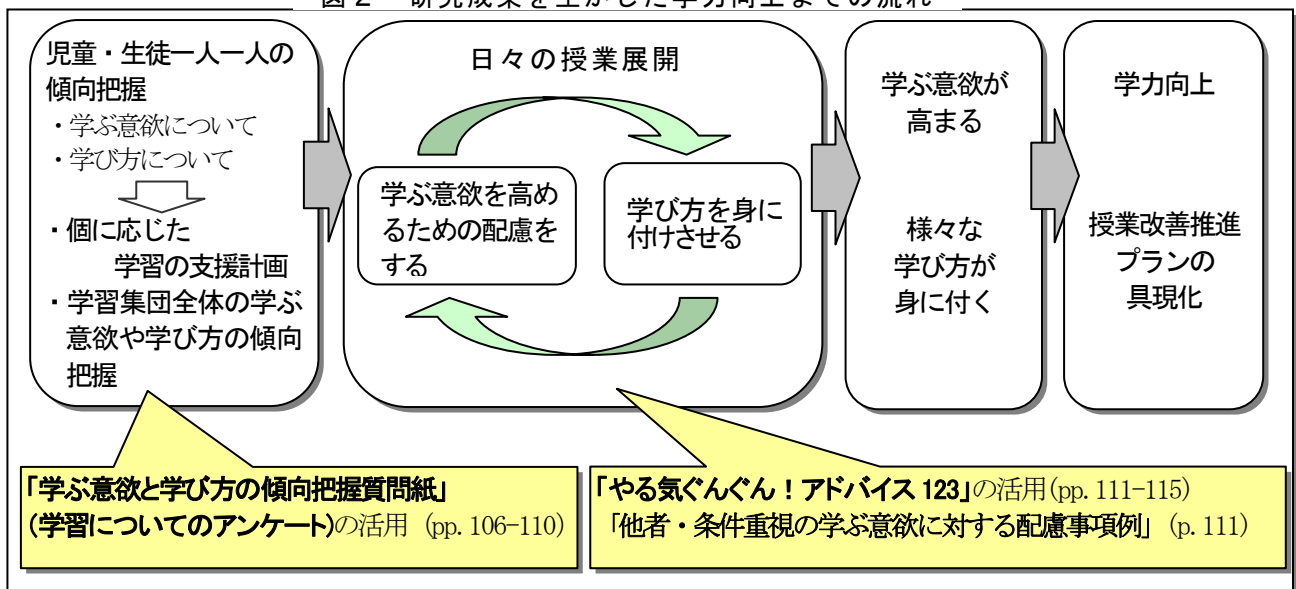
児童・生徒一人一人の学ぶ意欲に配慮し、学ぶ意欲の傾向に応じた指導をするためには、まず、児童・生徒の学ぶ意欲がどのような傾向にあるかを把握する必要がある。

そこで、児童・生徒一人一人の学ぶ意欲や学び方の傾向を把握することができる質問紙と処理システムの手法を開発した。この手法による分析結果を活用すれば、学ぶ意欲と学び方に配慮した個に応じた学習の支援計画を作成することができる。さらに、児童・生徒一人一人の学ぶ意欲や学び方の傾向を集約し分析することで、学習集団全体の傾向も把握することができ、児童・生徒の実態を踏まえた単元指導計画を作成することができる。(pp. 106-110)

(2) 「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」の開発

「学習内容重視」の学ぶ意欲へと高めるための配慮をしながら、学び方を身に付けさせるための具体的な手だてと発問・助言例を「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」(pp. 111-115)としてまとめた。さらに、「他者・条件重視」の学ぶ意欲をもつ児童・生徒へは、学ぶ意欲をはぐくむことを継続しながらも、よりよい学び方を身に付けさせていけるような配慮事項として、「他者・条件重視の学ぶ意欲に対する配慮事項例」(p. 111)を示した。

図2 研究成果を生かした学力向上までの流れ



IV 日々の授業に活用できる 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」(学習についてのアンケート)の開発

「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」は、一人一人の児童・生徒や学習集団全体の学ぶ意欲と学び方の傾向を把握するための質問紙である。この質問紙による調査（以下、アンケート）で得られた結果から、児童・生徒がどのようなときに、どのようなことに対して学習することに意義を感じるのか、どのような学び方を身に付けているのかについて、その大まかな傾向を把握することができる。ただし、特に学ぶ意欲については、あくまでも傾向を把握するのであって、その児童・生徒の行動の傾向や性格、価値観などを固定的にとらえるものではない。児童・生徒の置かれたその時々状況や、対象となる教科によっても、結果が変わってくるということを念頭において活用することが大切である。

なお、実施する際は pp. 109-110 の質問紙(図4、図5)をコピーして使うことができる。

1 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」の活用にあたって

(1) 質問紙の種類と内容の構成 (表3)

表3 質問紙における設問のカテゴリーと内容

① 質問紙の種類

質問紙は(1)と(2)の2種類がある (pp. 109-110)。設問文は異なるが、どちらの質問紙を使用しても同じ分析結果が期待でき、また、同じ方法で分析することができる。

② 設問の分類

質問紙の27の設問のうち、設問番号1～18までが学ぶ意欲の傾向について、19～27までが身に付いている学び方の傾向についての設問になっている。

③ 設問のカテゴリー

設問は、学ぶ意欲の6つと、3つの学び方、計9つのカテゴリーに分けて設定されている。そのカテゴリー各々に3つずつ設問がある。この3つの設問に対する回答結果から、児童・生徒の学ぶ意欲と学び方の傾向を把握する。

分類	設問番号とカテゴリー	内容		
学ぶ意欲	1 2 3	追求重視	分かる楽しい、よくがんばったという気持ちになれる、新しいことが知りたい	
	4 5 6	向上重視	いろいろな面からものごとを考えられるようになる、頭の訓練になる、無駄のない考え方ができるようになる	
	7 8 9	活用重視	生活の中で役に立つ、いずれ仕事で役に立つ、勉強しないと将来仕事の上で困る	
	10 11 12	勝敗重視	友達に負けたくない、まわりの人と同じくらいできないと悔しい、立派な人だと思われる	
	13 14 15	関係重視	まわりの人たちが勉強するから、友達と一緒にいたい、みんながやるから何となく	
	16 17 18	褒賞重視	シールやスタンプがもらえる、おこづかいやごほうびがもらえる、親や先生にしかられたくない	
	学び方	19 20 21	関連・発展	既習事項を新しい学習内容や学習課題と関連付けながら、考えたり解決したりする
		22 23 24	確認・改善	学習を振り返り、自分が達成できたことや課題を認識し、新たな目標をもつ
		25 26 27	練習・記憶	練習によって、知識や記憶を定着させたり技能を高めたりする

(2) 活用方法

① 基本的な使い方

質問紙(1)または(2)のいずれかを使って、年度の初めに児童・生徒の学ぶ意欲と学び方の傾向を把握したり、年度の途中や終わりで変容を見たりするときに使用する。なお、変容を見る際には、使用する質問紙を前後で同じものにするのが望ましい。

また、9つのカテゴリー各々に3つずつ設問があることは先に述べたとおりであるが、この3つの設問を4～6に増やすことも可能である。つまり、2種類の質問紙の設問を組み合わせ、最大で6つずつ、54の設問でアンケートを実施することもできる。

② 他教科で同じ時期に実施する場合

同じ時期に、複数の教科でアンケートを実施する場合は、児童・生徒が設問文に慣れてしまうことを防ぐため、2種類の質問紙を使い分けて実施することができる。

また、その際は、「国語の学習についてのアンケート」のように、教科名を入れ、児童・生徒にその教科を意識させて回答させるようにする。

2 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」の調査結果分析方法

アンケートの結果を統計的に処理し、児童・生徒の学ぶ意欲と学び方の傾向を把握する方法としては、標準偏差を求めるなどが考えられるが、ここではより簡易に処理できる方法として、カテゴリごとの平均を基にした処理及び分析方法を紹介する。

(1) 学ぶ意欲について

- ① 学ぶ意欲に関する設問は質問紙上部の1～18で、6つのカテゴリ各々に、3つずつ設問がある(図3)。その3つの回答結果(数字)の平均値を求める。
- ② 最も平均値が高いものが、その児童・生徒の学ぶ意欲の傾向と考えられる。(いくつかは複合している場合もあり得る)
- ③ 同様の方法で学級の平均を出し、学級の傾向を把握することもできる。

(2) 学び方について

- ① 学び方に関する設問は、質問紙下部の19から27で、3つのカテゴリ各々に、3つの設問がある(図3)。その3つの回答結果(数字)の平均値を求める。
- ② 平均値が高いものは、その児童・生徒に身に付いている学び方の傾向だと考えられる。
- ③ 3つの学び方すべてを身に付けることが目標となるため、平均値の低いものが、その児童・生徒に特に身に付けさせるべき学び方だといえる。

- ④ 同様の方法で学級の平均を出し、学級の傾向を把握することもできる。

(3) 具体的な分析例

児童Aを例に、分析方法を紹介する。ここでは表計算ソフトを使用した集計と、レーダーチャートグラフを出力する方法を示した。

図3 アンケート回答(例)

学習についてのアンケート(1)

5年1組 氏名 A

自分の考え方に近い番号に○をつけてください。

番号	設問	4	3	2	1	傾向
1	分かる楽しいから勉強する。	○				追求
2	「よくがんばった」という気持ちになれるから勉強する。		○			
3	新しいことを知りたいから勉強する。	○				
4	いろいろな面からものごとを考えられるようになるから勉強する。		○			向上
5	勉強することは頭の訓練になると思うから勉強する。			○		
6	むだのない考え方ができるようになるために勉強する。				○	
7	勉強したことは生活の中で役に立つから勉強する。			○		活用
8	勉強で得た知識を、ずいぶん仕事や生活の役に立つと思うから勉強する。				○	
9	勉強しないと将来仕事の上で困るから勉強する。				○	
10	勉強して、よい学習になった方が、よい生活になるから勉強する。			○		勝敗
11	勉強がまわりの人と同じく、のびのびとできるから勉強する。				○	
12	友だちに負けたくないから勉強する。				○	
13	まわりの人たちが勉強するから勉強する。				○	関係
14	友だちとついでに勉強したいから勉強する。				○	
15	みんながやるから何となく勉強する。				○	
16	よい学校に入ればよい生活ができるから勉強する。				○	褒賞
17	成績がよければおこづかいや褒められるから勉強する。				○	
18	テストの成績が悪いと親や先生に叱られるから勉強する。				○	
19	問題を自分で解決できるから勉強する。	○				関連・発展
20	新しいことを学習するときには、自分で考えるようにしている。				○	
21	学習したことが、別の教科でも役に立つように考えている。				○	
22	分からないことがあったとき、自分で解決するようにしている。				○	確認・改善
23	分からないことがあったとき、先生や友達に聞いて解決するようにしている。				○	
24	学習するときはこの学習内容を、よく確認している。				○	
25	勉強するときはできるだけ暗記している。	○				練習・記憶
26	問題の解き方を覚えるために例題を何度も何度も解いている。				○	
27	勉強するときは段階を追って解き方の手順を覚えようとしている。				○	

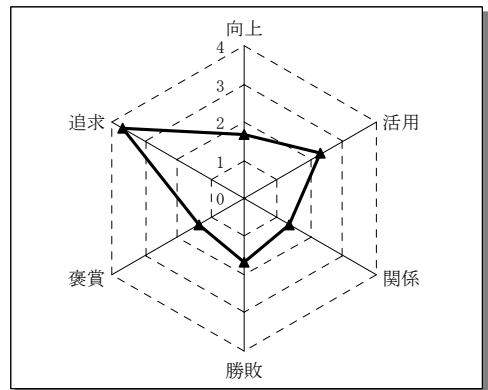
表4 表計算ソフトを使用した入力・集計表(例)

インプット表		質問番号																		平均値																	
		学ぶ意欲(学習内容重視)									学ぶ意欲(他者・条件重視)									学ぶ意欲			学び方														
出席番号	氏名	追求(a)			向上(b)			活用(c)			勝敗(d)			関係(e)			褒賞(f)			関連・発展(g)			確認・改善(h)			練習・記憶(i)			(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27									
1	A	4	3	4	1	2	2	2	2	3	3	1	1	1	1	2	1	2	1	4	3	1	2	2	1	4	1	3	3.7	1.7	2.3	1.7	1.3	1.3	2.7	1.7	2.7
2		3	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	1	1	1	1	1	3	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2.3	2.0	2.3	2.7	1.0	1.7	2.0	2.0	3.0
3		3	3	3	2	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	2	2	3	2	2	4	3.0	2.3	3.3	4.0	4.0	4.0	3.0	2.3	2.7
39		4	4	4	3	3	4	4	4	3	2	2	1	3	3	3	1	1	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4.0	3.3	3.7	1.7	3.0	2.0	4.0	4.0	3.3
40		3	3	3	4	4	4	4	4	4	2	2	2	4	4	3	1	1	3	2	2	3	2	2	3	2	3	3	3.0	4.0	4.0	2.0	3.7	1.7	2.3	2.3	2.7
		学級の平均																											2.9	2.9	3.0	2.0	1.9	1.9	2.6	2.7	2.8

① **学ぶ意欲の傾向** (グラフ1)

- ・「追求」(表4 平均値 (a)) …3.7(最大値)
- ・「向上」(同 (b)) …1.7
- ・「活用」(同 (c)) …2.3
- ・「勝敗」(同 (d)) …1.7
- ・「関係」(同 (e)) …1.3
- ・「褒賞」(同 (f)) …1.3
- ・6つのカテゴリーのそれぞれの平均値を求めると、「追求」が3.7で最大となるため、児童Aは「追求重視」の傾向が強いととらえる。

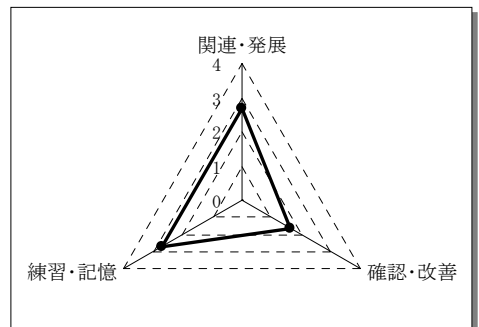
グラフ1 学ぶ意欲の傾向(例)



グラフ2 学び方の傾向(例)

② **学び方の傾向** (グラフ2)

- ・「関連・発展」(表4 平均値 (g)) …2.7
- ・「確認・改善」(同 (h)) …1.7
- ・「練習・記憶」(同 (i)) …2.7
- ・3つのカテゴリーのそれぞれの平均値を求めると、「確認・改善」が低いため、児童Aには「確認・改善」を中心に指導していくことが必要であるといえる。



③ **個に応じた学習の支援計画** (表5)

以上の結果を「やる気ぐんぐん! アドバイス 123」(pp. 111-115)と照らし合わせて、支援の計画を立てる。

児童Aの場合、学ぶ意欲は「追求重視」の傾向であり、学習内容重視の意欲をもっているため、その意欲を失わないよう、学習の楽しさを味わわせるよう配慮する。学び方は、既習の内容を復習したり大切な部分を確認したりできるよう支援していく。

表5 個に応じた学習の支援計画表(例)

番号	児童氏名	学ぶ意欲傾向		学び方傾向	
		学ぶ意欲	傾向	学び方	傾向
1	A	学習	追求	関連・発展	練習・記憶
2		他者	勝敗	練習・記憶	
3		他者	勝敗 / 関係 / 褒賞	関連・発展	
39		学習	追求	関連・発展	確認・改善
40		学習	向上 / 活用	練習・記憶	

把握した傾向は、座席表や名簿などに記入しておく、日々の授業ですぐに活用できる。

図4 学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙(1)

学習についてのアンケート(1)

____年 ____組 氏名_____

自分の考え方に近い番号に○をつけてください。

	4	3	2	1
1 分かると楽しいから勉強する。	4	3	2	1
2 「よくがんばったな」という気持ちになれるから勉強する。	4	3	2	1
3 新しいことを知りたいから勉強する。	4	3	2	1
4 いろいろな面からものごとを考えられるようになるから勉強する。	4	3	2	1
5 勉強することは頭の訓練になると思うから勉強する。	4	3	2	1
6 むだのない考え方ができるようになるために勉強する。	4	3	2	1
7 勉強したことは生活の中で役に立つから勉強する。	4	3	2	1
8 勉強で得た知識はいずれ仕事や生活の役に立つと思うから勉強する。	4	3	2	1
9 勉強しないと将来仕事の上で困るから勉強する。	4	3	2	1
10 勉強してよい学校に入った方が立派な人だと思われるから勉強する。	4	3	2	1
11 勉強がまわりの人と同じくらいにできないのはくやしいから勉強する。	4	3	2	1
12 友達に負けたくないから勉強する。	4	3	2	1
13 まわりの人たちが勉強するから勉強する。	4	3	2	1
14 友達といっしょにいたいから勉強する。	4	3	2	1
15 みんながやるから何となくあたりまえと思って勉強する。	4	3	2	1
16 よい学校に入れば大人になって経済的にもよい生活ができるから勉強する。	4	3	2	1
17 成績がよければおこづかいやごほうびがもらえるから勉強する。	4	3	2	1
18 テストの成績が悪いと親や先生にしかられるから勉強する。	4	3	2	1
19 一つの方法で問題が解けてもほかにも解き方がないかどうか考えている。	4	3	2	1
20 新しいことを学習するときは今までに学んだことも思い出すようにしている。	4	3	2	1
21 学習したことがほかの教科でも使えるのではないかと考えている。	4	3	2	1
22 分からないことがあったときは自分が分かっているのはどこなのかを確認している。	4	3	2	1
23 分からないことがあったときは自分で調べて解決するようにしている。	4	3	2	1
24 学習するときはこの学習で何を学ぶかをはっきりさせている。	4	3	2	1
25 勉強するときにはできるだけ暗記しようとする。	4	3	2	1
26 問題の解き方を覚えるために例題を何度も何度も解いている。	4	3	2	1
27 勉強するときには段階を追って解き方の手順を覚えようとしている。	4	3	2	1

図5 学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙(2)

学習についてのアンケート(2)

_____年 _____組 氏名_____

自分の考え方に近い番号に○をつけてください。

	そう思う	少し そう思う	あまり 思わない	思わない
1 何かができるようになっていくことは楽しいから勉強する。	4	3	2	1
2 勉強しないと充実感がないから勉強する。	4	3	2	1
3 たくさんの知識を身に付けた人になりたいから勉強する。	4	3	2	1
4 いろいろな考え方ができるようになりたいから勉強する。	4	3	2	1
5 勉強すると頭のはたらきがよくなるから勉強する。	4	3	2	1
6 勉強するとすじ道だった考え方ができるようになるから勉強する。	4	3	2	1
7 勉強したことはいろいろなところで役に立つと思うから勉強する。	4	3	2	1
8 勉強で知ったことは大人になったとき役に立つと思うから勉強する。	4	3	2	1
9 勉強すると将来仕事がうまくできるようになるから勉強する。	4	3	2	1
10 成績がよければまわりの人から尊敬されると思うから勉強する。	4	3	2	1
11 勉強がまわりの人と同じくらいできないと、自信がなくなってしまうから勉強する。	4	3	2	1
12 テストで友達よりよい点を取りたいから勉強する。	4	3	2	1
13 友達と同じようにしていきたいので勉強する。	4	3	2	1
14 友達といっしょなら楽しいから勉強する。	4	3	2	1
15 まわりの人たちがよく勉強するのでそれにつられて勉強する。	4	3	2	1
16 よい学校に入れないと大人になってよい仕事先がないから勉強する。	4	3	2	1
17 成績がよければほしいものを買ってもらえるから勉強する。	4	3	2	1
18 勉強しないと親や先生にしかられるから勉強する。	4	3	2	1
19 問題を解くときには一つだけでなくいくつも解き方を考えている。	4	3	2	1
20 今までに学んだことを思い出しながら、新しいことを学習するようにしている。	4	3	2	1
21 学習したことが生活や今までの学習に使えるのではないかと考えている。	4	3	2	1
22 分からない問題があったときは自分の分からないところをはっきりさせている。	4	3	2	1
23 分からない問題があったときは自分で調べて解くようにしている。	4	3	2	1
24 学習するときには何が一番大切なのかをはっきりさせている。	4	3	2	1
25 勉強するときには必要なことを暗記しようとしている。	4	3	2	1
26 勉強するときにはたくさん例題を解いて解き方を覚えようとしている。	4	3	2	1
27 勉強するときには解き方の手順を一つずつ覚えようとしている。	4	3	2	1

V 日々の授業に活用できる「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」の開発

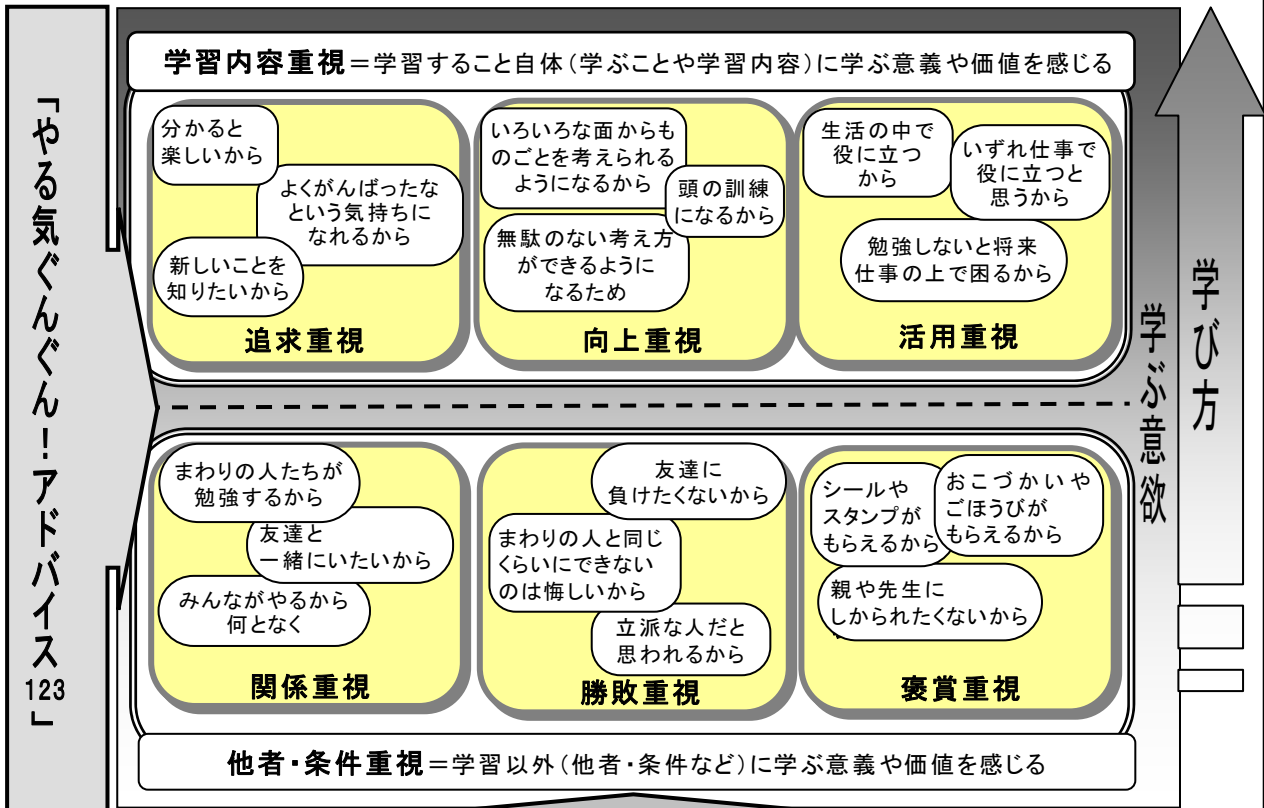
やる気ぐんぐん！ アドバイス123

「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」は、よりよい学び方を児童・生徒に身に付けさせるための具体的な手だてと、発問・助言例を示したものです。

児童・生徒一人一人の学ぶ意欲を、「学習内容重視」の意欲にさらに高めながら、学び方を身に付けさせるための指導資料として、日々の授業で活用してください。

なお、具体的な手だてを行う際、「他者・条件重視」の傾向が見られる場合は、よりよい学び方が身に付く「学習内容重視」の意欲に変容させることが必要と考え、「他者・条件重視の学ぶ意欲に対する配慮事項例」として明記しました。併せて活用してください。

学ぶ意欲の2分類・6傾向と具体的な児童・生徒の姿(p.103 参考)



他者・条件重視の学ぶ意欲に対する配慮事項例

- 学習に取り組むこと自体の楽しさを味わわせる。 ○「次はどんなことが分かるのかな」という期待感をもつことができるようにする。 ○学習内容が身に付いたことを価値付け、その有用性に気付かせる。
- 学習内容重視の友達と活動させる場を設定していく。
- 自らの進歩を実感させ、次の課題に気付かせる。
- シールやスタンプなどを効果的に活用し、学習内容が身に付いたことを認める。
- 児童・生徒が認め合い、励まし合う親和的な学習集団づくりをする。
- 友達と適度に切磋琢磨する場を取り入れながら、自分の記録に挑戦させる。
- 機会を逃さず称賛し、できたことを価値付ける。

「やる気ぐんぐん！アドバイス123」 の使い方

【3つの学び方】

学習内容に合わせて、児童・生徒に身に付けさせたい学び方を選びます。
 1時間の授業の中で3つの学び方すべてを選ぶ場合や3つのうちの1つもしくは2つだけを選ぶ場合もあります。

学習状況	具体的な手だて	一斉	個別	各場面
(1)この学習で何を理解する。	◆単元を通して何を学ぶのか知らせる。	○	○	「この単元では、 「学習のテーマは、
	◆授業の冒頭で、今日の学習のめあてを確認する。	○	○	「今日の学習のめあては、 「今日のめあては、この前の反省
	◆授業の途中で、今日の学習のめあてを確認する。 ・作業や自力解決を始める前	○	○	「今日の学習のめあては、 「例題の x にあたる

学び方1. 関連・発展

既習事項を新しい学習内容や学習課題と関連付けながら、考えたり解決したりする。

学び方2. 確認・改善

学習を振り返り、自分が達成できたことや課題に気づき、新たな目標をもつ。

学び方3. 練習・記憶

練習によって、知識や記憶を定着させたり、技能を高めたりできる。

【児童・生徒の姿】

具体的な手だてを指導に取り入れたときに目標とする児童・生徒の姿です。

児童・生徒の姿	具体的な手だて
(1)この学習で何を学ぶのか理解する。	◆単元を通して何を学ぶのか知らせる。 ◆授業の冒頭で、今日の学習のめあてを確認する。 ◆授業の途中で、今日の学習のめあてを確認する。 ・作業や自力解決を始める前 ・途中でやり方がわからなくなってしまった時 ・先に進めなくなってしまった時 ・話し合いを始める前

【具体的な手だて(◆手だて・場面例や留意事項など)】

学び方を身に付けさせるための具体的な手だてが示してあります。

示された手だてをすべて取り入れる必要はなく、学習内容に適したものを選ぶようにします。

【一斉指導または個別指導】

一斉指導の場面に適していると考えられる手だてや発問・助言例には“一斉”に○、個別指導の場面に適していると考えられる手だてや発問・助言例には“個別”に○がついています。

具体的な手だてを指導に取り入れる際の参考にしてください。

一斉	個別	各場面における発問、助言例
○		「この単元では、～について学習していきます。」
○		「学習のテーマは、～です。」
○		「今日の学習のめあては～です。」
○		「今日のめあては、この前の反省を生かしてチームワークよくゲームをする方法を話し合うことですね。」
○	○	「今日の学習のめあては何だったのでしょうか。」
○	○	「例題の x にあたる数字はいくつでしょうか。」
○	○	「学習のめあてを達成するには、何について考えれば(話し合えば)いいでしょうか。」
○	○	「もう一度学習のめあてに戻って考えてみましょう。」

【各場面における発問、助言例】

この例を参考にして、児童・生徒の実態に合わせて工夫してください。また、学ぶ意欲の傾向に応じて意識的に用いる、言葉を変えるなど工夫をしてください。

また、ここに示されていないものでも、学び方につながるような発問、助言が日々の実践の中で見つかった場合は、付け加えていくとよいでしょう。

学び方1. 関連・発展 既習事項を新しい学習内容や学習課題と関連付けながら、考えたり解決したりする。

児童・生徒の姿	具体的な手だて	一斉	個別	各場面における発問、助言例
(1) 一つの方法で問題が解けても、他にも解き方がないかどうかを考える。	◆ 解き方や考え方は複数あることを伝える。	○	○	「解き方は何通りかあります。」
		○	○	「考え方は一つではありません。」
		○	○	「それぞれどのように考えたのでしょうか。」
	◆ 複数の考え方を示し、それぞれの違いに着目させる。	○	○	「考え方の違いが分かるように、説明しましょう。」
		○	○	「〇さんと△さんの考えのちがいはどこでしょうか。」
		○	○	「〇さんと△さんの考えのちがいはどこでしょうか。」
	◆ いろいろな視点で考えるよう促す。	○	○	「いくつ方法を見つけられるでしょうか。」
		○	○	「〇と△の同じ点を考えてみましょう。」
		○	○	「Aさんは、こんな解き方を発見しましたよ。」
		○	○	「自分が読み手になったつもりで、相手に伝わりやすい書き方を工夫しましょう。」
		○	○	「〇と△の間にはどのような関係があるのでしょうか。」
		○	○	「～のどこを変えるともっとよい考えになるのでしょうか。」
○		○	「〇と△を比べてみましょう。どちらの方が～といえますか。」	
◆ 解き方や考え方を説明し合う場面を設定する。 ・ 観点やヒントを示す。 (共通点、相違点、よさ)	○	○	「自分と同じ解き方はこの中にありますか。」	
	○	○	「これらの考え方で、似ているものはどれとどれでしょうか。」	
	○	○	「なぜ〇の方法がよいと思ったのですか。」	
	○	○	「分かりやすい方法はどれだと思いますか。」	
	○	○	「たくさん得点するために考えた作戦を紹介してください。」	
	○	○	「環境を守る取り組みとして、ふだんの生活でできる工夫を考えて説明しましょう。」	
	◆ 活用できそうな場面を具体的に予想させる。	○	○	「この考え方が使えるような学習はないか、考えてみましょう。」
		○	○	「生活のどんな場面で使えると思いますか。」
		○	○	「この熟語は最近ニュースでよく取り上げられていますね。どういう意味がわかりますか。」
	◆ 活用できる場面を具体的に例示する。	○	○	「この計算を使って△割引きの値段を求める方法を考えてみましょう。」
○		○	「学習した手紙の書き方は、はがきの書き方としても活用できますね。」	
○		○	「昨日学習した～に関する新聞記事を、Bさんが見つけたそうです。紹介してもらいましょう。」	
◆ 生活や学習の場面で実践できた例を報告させる。	○	○	「調理実習で作った料理を家でも試した人がいるので、紹介してください。」	
	○	○	「学んだ栄養素の特長を生かしたアイデアレシピコンクールをしましょう。」	
	○	○	「学んだ栄養素の特長を生かしたアイデアレシピコンクールをしましょう。」	
(3) 新しいことを学習するとき、今までに学習したことを思い出す。	◆ 既習事項を思い出すよう助言する。	○	○	「昨日の学習では何が分かりましたか。」
		○	○	「この方法は…の学習でも使いましたね。」
		○	○	「これまでの学習のなかから、この学習につながることを思い出してみましょう。」
	◆ 既習事項から導入する。	○	○	「昨日は～について学習しました。今日はその続きです。」
		○	○	「前の学習を生かして、この問題を解いてみましょう。」
	◆ 既習事項を示す。	○	○	「この学習のもとになっているのは、～の考え方です。〇年生の…の単元で学習しました。」
◆ 既習事項を生かせば解決できる課題や問題を提示する。	○	○	「それぞれの問題に、どの方法が使えるか考えながら解いていきましょう。」	
	○	○	「①～④の問題にはAの方法、⑤～⑩の問題にはBの方法が使えます。」	
◆ 学習の終わりにその日の学習内容を確認する。	○	○	「今日の学習では何が分かりましたか。」	
	○	○	「今日の学習でとても大切だったことは何でしょうか。」	
(4) 学習したことが他の教科や学習でも使えるかどうかを考える。	◆ 他の教科で関連することがらに着目させる。	○	○	「今日学習したことは他の教科の何の学習で使えると思いますか。」
		○	○	「今日学習した調べ方は、～の学習でも活用できそうですね。」
		○	○	「〇さんは、この間学習したグラフの書き方を使ってレポートをまとめていました。」
	◆ 学習したことを他の教科の学習につなげる。	○	○	「国語の説明文を参考にして、世界の自然環境について、総合的な学習でも調べていきましょう。」
		○	○	「観察したヘチマの成長記録をコンピュータでグラフにしてみましょう。」
		○	○	「国語で学んだ辞書の引き方を生かして、社会科で出てきた用語も調べてみましょう。」
		○	○	「算数で学んだ比の考え方を使って、ドレッシングの油と塩の割合を確かめて作りましょう。」

学び方2. 確認・改善 学習を振り返り、自分が達成できたことや課題に気づき、新たな目標をもつ。

児童・生徒の姿	具体的な手だて	一斉	個別	各場面における発問、助言例
(1) この学習で何を学ぶのかを理解する。	◆ 単元を通して何を学ぶのか知らせる。	○		「この単元では、～について学習していきます。」 「学習のテーマは、～です。」
	◆ 授業の冒頭で、今日の学習のめあてを確認する。	○		「今日の学習のめあては～です。」 「今日のめあては、この前の反省を生かしてチームワークよくゲームをする方法を話し合うことですね。」
	◆ 授業の途中で、今日の学習のめあてを確認する。 ・ 作業や自力解決を始める前 ・ 途中でやり方がわからなくなってしまった時 ・ 先に進めなくなってしまった時 ・ 話し合いを始める前	○	○	「今日の学習のめあては何だったのでしょうか。」 「例題のxにあたる数字はいくつでしょうか。」 「学習のめあてを達成するには、何について考えれば（話し合えば）いいでしょうか。」 「もう一度学習のめあてに戻って考えてみましょう。」
	◆ 授業の終わりで、次時の学習のめあてを示す、決めさせる。	○	○	「次の学習のめあては～です。」 「次の学習に関係ある問題を予告しておきます。」 「次は何を学ぶ必要がありますか。めあては何にしますか。」
(2) 前に学習したことを覚えているかどうかを確認する。	◆ 単元の導入で、既習事項に関する発問や確認を行う。	○		「～について、これまでに学習してきたことを思い出してみましょう。」 「前の時間に学んだ公式を覚えていますか。」
	◆ 授業の冒頭で、既習事項に関する発問や確認を行う。	○		「昨日はどんなことを学習しましたか。」 「昨日の学習のまとめをノートで確かめましょう。」
	◆ 授業の冒頭で、簡単な復習問題に取り組みさせる。	○		「昨日の学習の確認をしましょう。問題を出します。」 「昨日の学習の確認です。質問に答えましょう。」
(3) 学習するときは、自分が分からないのはどこなのかを確認する。	◆ 自己評価カードに自分の課題を書かせる。	○	○	「自分の課題は何ですか。」 「次にがんばりたいことは何ですか。」 「さらに調べてみたいことは何ですか。」 「次の学習では何に取り組めばよいですか。」
	◆ つまずきに気付かせる。 ・ 分かっていること、分かっていることを子どもと一緒に確認する。 ・ 分かっていること、分かっていることをノートの記述等から読みとり、ノートへの書き込みや口頭で、つまづいている箇所や取り組むべき学習内容・方法を伝える。	○	○	「ここまでの学習で質問はありますか。」 「～はわかりますか。では…はどうですか。どこから分からなくなったのか一緒に確認しましょうね。」 「～のところはよく分かっていますね。」 「…のところ心配ですね。この問題に挑戦してみましょう。」 「計算違いがありますね。落ち着いて進めましょう。」 「もっと速く泳ぐには、どんな練習をすればよいのか考えてみましょう。」
	◆ つまずいている箇所から復習させる。		○	「～のところでミスが多いですね。ドリル〇番の問題を集中的に解きましょう。」 「跳び箱を高く跳べるように、踏切りの仕方からもう一度練習しましょう。」 「リコーダーでもっときれいな音を出すためのタンギングは、トゥートゥーでしたね。」
	◆ 自力解決を行うための基本的な技能を身に付けさせる。 ・ 調べ学習で集中的に行う 例) 図書資料の探し方、パソコンでの検索の仕方、統計資料の読み方	○	○	「何について調べるか、書き出してみましょう。」 「何を使って調べるとよいでしょうか。」 「分からない時は、～や…を使って調べます。」 「～だけでなく、…を使ってみましょう。」
(4) 分からないことがあったときは、自分で調べて解決する。	◆ 資料の準備、教室環境の整備を行う。	○	○	「資料コーナーに、～についての本や図鑑が用意してあります。」 「図書室の…というコーナーにヒントとなる本があります。」
	◆ 授業の中で何度も取り上げるなど、一番大事な部分に気付かせる。	○		「ここがこの学習のポイントですね。」 「大事なところはどこだと思いますか。」 「今日の学習のキーワードはどれでしょう。」 「結論を述べている文章に線を引きましょう。」
(5) 繰り返し復習する。繰り返し復習する。	◆ 「大事な部分だから繰り返し練習する」という意識をもたせようとして、繰り返し学習の経験を積ませる。	○		「この方法ができるようになることが大切です。しっかり復習しましょう。」 「大事なところを何度も復習すると、さらに分かるようになります。」 「波縫いの練習をすると、針の持ち方や運び方に慣れて、他の縫い方もできるようになります。」
	◆ 自分の課題に応じた習熟や復習の時間を確保する。		○	「この問題を間違えないように丁寧に解いていきましょう。」 「特に復習したい問題を選んで取り組んでみましょう。」 「3つのコースの中から自分に合ったコースを選んで進めていきましょう。」 「〇の技から練習したい人は〇チーム、△の技に挑戦する人は△チームで練習しましょう。」

学び方3. 練習・記憶 練習によって、知識や記憶を定着させたり、技能を高めたりできる。

児童・生徒の姿	具体的な手だて	一斉	個別	各場面における発問、助言例
(1) 以前に取り組んだ問題については、解決の見通しをもつことができる。	◆ 同じ方法で解決できる例題に繰り返し取り組ませる。 ・ 提示の仕方を工夫する。 (同じパターンで、問題に変化をつけて)	○	○	「同じ方法で解決できる問題を出します。」 「同じ方法で解決できるか、計画を立ててみましょう。」 「この問題も、同じ方法でできますか。」
	◆ 何度も取り組んだことを活用でき、活用できたことを実感できるような学習場面を設定する。 ・ 確認テストの実施 ・ 類題の作成	○	○	「毎日練習したことが今日の成果につながったんですね。」 「学習してきたことを使って問題を作ってみましょう。」 「これまでに取り組んできた問題を参考にしながら、いろいろな問題ができましたね。」
(2) 自分が必要と判断したことを記憶する。	◆ “覚えなければいけない”という意識のもと、暗記する経験を積ませる。	○	○	「～のために覚えなければならないことです。」 「…の学習でも必ず使いますので、しっかり覚えておきましょう。」 「漢字練習を○回ずつして、正しく覚えましょう。」
	◆ 覚えると便利である具体例を示す。	○	○	「これを覚えていると、…の時に役に立ちます。」 「漢字をたくさん覚えておくと、いろいろなジャンルの本が楽しめますね。」 「北極星の探し方を覚えておくと、方角を確かめるのに便利です。」
	◆ 自分に合った方法で暗記する時間を確保する。	○	○	「暗記するには、書く、声に出して読む、線を引くなどの方法があります。自分に合った方法を選びましょう。」
	◆ 覚えたことが活用でき、活用できたことを実感できるような学習場面を設定する。	○	○	「覚えたことを使って、この問題に挑戦しましょう。」 「この歴史資料にも、この間覚えた言葉が出てきましたね。」
	◆ 覚えたことをチェックする、時間を確保する。	○	○	「問題を解きながら、覚えたことと、まだ覚えていないことをチェックしていきましょう。」 「まだ覚えていないところや、間違えて覚えているところは、もう一度覚え直しましょう。」 「かけ算の九九を暗唱してみましょう。」
◆ 暗記した内容や量を自覚させ成果を実感させる。	○	○	「○問正解でした。前より△問も多く正解できましたね。」 「かけ算九九の○の段まで覚えることができているんですね。」 「詩の暗唱記録は、どこまでのびていますか。」	
(3) 例題に何度も取り組み、解き方を覚える。	◆ 同じ方法で解決できる例題を用意する。 ・ 提示の仕方を工夫する。 (同じパターンで、問題に変化をつけて)	○	○	「同じ方法で解決できる例題に挑戦しましょう。」 「同じ方法で解決できる例題を作ってみましょう。」 「ドリル○ページは同じ方法でできる問題ですから、繰り返し解いてみましょう。」
	◆ 例題を自分で作成させ、友達と解き合う時間を設定する。	○	○	「Aさんが作った問題を解いてみましょう。」 「友達と問題を交換してお互いに解いてみましょう。」
(4) 解決するための手順を覚える。	◆ 初めに方法や解法の手順を分かりやすく説明する。	○	○	「まずは～から調べてみましょう。次に…について調べます。そしてその理由を考え、この下にご書きます。」 「アルコールランプを扱うときには、まず燃えやすいものが近くにないか確かめます。次に～に気を付けます。」
	◆ 手順が示されていないくても、覚えた手順で進めることができるようにする。 ・ ヒントになるカードや提示資料を準備する。 例) 筆算の仕方 実験器具の使い方 資料の調べ方 用具の操作の仕方	○	○	「この前学習した操作の仕方を覚えていますか。思い出しながら進めていきましょう。」 「～の手順を黒板に貼っておきますから、分からなくなったら確認するようにしましょう。」 「～を安全に使うため、この手順はしっかり守りましょう。」

VI 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」と「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」を活用した学習展開例

1 国語科の事例

(1) 具体的な手だてを盛り込んだ学習展開例

小学校第6学年国語『熟語の成り立ち』（2時間扱い）
 単元のねらい○熟語の成り立ちや熟語を構成する漢字の特質について関心をもつようにする。
 ○熟語の構成を理解し、正しく書くようにする。

「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」から、具体的な手だてを盛り込む。

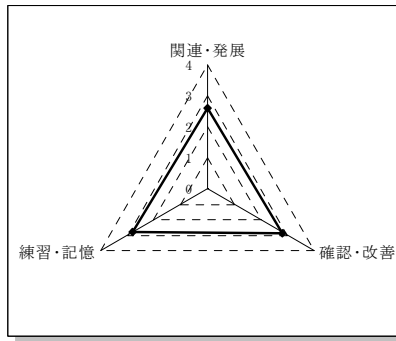
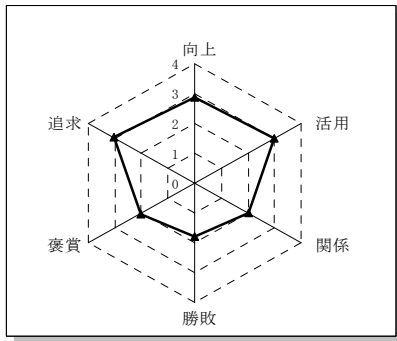
「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」の手だてから場面に合う発問を考える。

本時の目標 (第1/2時)	学習活動	指導上の留意点	評価規準
○二字熟語についてその成り立ちに関心を持ち、漢字のもつ特質にかかわって構成されていることを理解する。	1. 示された熟語の意味や漢字同士の組み合わせ方を考えて発表する。 ○「上下」：反対の意味の組み合わせ(⇔) ○「学習」：似た意味の漢字の組み合わせ(=) ○「右折」：上から下に読むと意味が分かる。(↓) ○「下山」：下から上に読むと意味が分かる。(↑)	一斉 □これまでに学んだ熟語をもとに、これから学ぶことを理解できるように、簡単な熟語を例示する。 □児童が、漢字の組み合わせをイメージできるよう、記号カードも示す。(記号カード提示・⇔・＝・↓・↑) □児童の反応を受け止めながら、漢字の組み合わせ方の説明をまとめて、板書する。 □ワークシートを配布する。 □教科書を見せずに、いくつかの熟語を提示する。(天地・売買・価値など)	これらの熟語はどういう意味でしょう。また、漢字二文字がどのような関係で組み合わせられているでしょう。 [学び方1. (3)]
	2. 本時で学習する内容を知り、ワークシートで確認する。 3. 示された熟語はどのような漢字の組み合わせで分類できるかについて班で話し合い、発表する。 4. 他の熟語も分類する。 ○⇔：開閉 ○＝：忠誠、異変 ○↓：海底 ○↑：帰国	小集団 □分類に戸惑った熟語については、班で協力して漢字の意味を考えたり、漢字辞典で調べたりするよう助言する。 個別 □学んだことを応用できるような二字熟語を示す。 □早く終わった児童へは、示した熟語以外に各分類にあてはまる熟語を調べて加えるように促す。	今日、二字熟語を中心に熟語がどのような漢字の組み合わせでできているのか、ということについて学習していきます。 [学び方2. (1)]
	5. 熟語の構成を問う問題を作って出し合う。 ○⇔：左右 ○＝：幸福 ○↓：小石 ○↑：貯金	個別 □友達と交流しながらたくさん問題に挑戦できるよう、3人以上の友達と問題を交換して解き合うルールとする。	これから示す二字熟語を漢字辞典を使って調べてみましょう。発表するときは、そのように分類したわけも説明してください。 [学び方2. (4)]
	6. 学習のまとめをし、次の学習への見通しをもつ。 ○漢字二字の熟語の組み合わせ方には、いくつか種類がある。 ○熟語を組み立てている漢字を分けて意味を考えると、組み合わせ方や熟語全体の意味が分かる。 7. ふりかえりカードを書く	個別 □機会を逃さず称賛し、できたことを価値付ける。	このきまりにしたがって、他の熟語も漢字辞典を使って分類してみましょう。 [学び方2. (4)]
	評価 ○国語への関心・意欲・態度：熟語の成り立ちや熟語を構成する漢字の特質について関心を持ち、進んで使ったり書いたりする。 ○言語についての知識・理解・技能：熟語の構成は、漢字のもつ特性とかかわっていることを理解しながら熟語を書いている。	一斉 □次の学習の見通しがもてるように、三字の熟語をいくつか示し、どこで熟語を区切ると意味が分かりやすいか考えておくように促す。(三字熟語カード：大至急・無制限・郵便局・利己的・市町村など)	関心・意欲・態度 熟語の成り立ちや熟語を構成する漢字の特質について関心を持ち、進んで使ったり書いたりする。 今日学んだことを生かして、漢字の組み合わせを記号で答える熟語クイズを作りましょう。 [学び方3. (3)]

他者・条件重視の学ぶ意欲に対する配慮事項

知識・理解
 熟語の構成は、漢字のもつ特質とかかわっていることを理解しながら熟語を書いている。

(2) 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」による調査結果で得られた学級全体の傾向



＜現状のとらえ＞

学ぶ意欲は「学習内容重視」の傾向が見られ、学び方は3つがそれぞれに身に付いてきていると考えられる。

＜レーダーチャートから見た必要と思われる手だて＞

- ・ 学習内容重視の傾向をさらにはぐくむことができるよう、分かる楽しさや、上達した喜び、学習したことが他の場面でも生かせることが実感できるような活動場面などを工夫することが大切である。
- ・ 3つの学び方をより確実に身に付けさせるために、学習課題の解決に既習事項を活用するよう促したり、技能を高めるための自己解決の場面を設定したりすることなどが大切である。

(3) 授業記録による分析・考察(本単元全2時間の授業記録より)

○児童A

① 具体的な手だての検証

(学び方1 (1)～3 (4)及び◆の内容は『やる気ぐんぐん！アドバイス 123』より)

学び方1. (3)新しいことを学習するときは、今までに学習したことを思い出す。(本時における手だて)

◆既習事項を思い出すよう助言する。

[教員からの発問、助言など] (○字は発問、助言) ◎ 「これらの熟語はどういう意味でしょう。また、漢字二文字がどのような関係で組み合わせられているでしょう。」	[児童の姿・変容と考察など] ○ 黒板へ提示された資料に注目していた。その場面におけるふりかえりカードから既習事項を思い出せていたことが分かった。
---	--

学び方2. (1)この学習で何を学ぶのかを理解する。(本時における手だて)

◆単元を通して何を学ぶのか知らせる。

[教員からの発問、助言など] (○字は発問、助言) ◎ 「今日は、二字熟語を中心に熟語がどのような漢字の組み合わせでできているのか、ということについて学習していきます。」 ・ 本時の学習のめあてを話した。	[児童の姿・変容と考察など] ○ めあてが分かったかどうかの投げかけには反応が見られなかったが、ふりかえりカードからは理解できていたことが分かった。めあてを視覚的にとらえさせる工夫も必要であることが分かった。
--	---

学び方2. (4)分からないことがあったときは、自分で調べて解決する。(本時における手だて)

◆自力解決を行うための基本的な技能を身に付けさせる。

[教員からの発問、助言など] (○字は発問、助言) ◎ 「これから示す二字熟語を漢字辞典を使って調べてみましょう。発表するときは、そのように分類したわけも説明してください。」 ・ グループごとに熟語カードを準備した。 ・ 一人一冊漢字辞典を持たせるようにした。	[児童の姿・変容と考察など] ○ カードが手渡されると、漢字辞典を引き始め、進んで調べていく姿が見られた。 ○ 自分で調べて解決していく場面でも、2つの熟語に対し、漢字辞典を引いて調べ、板書も写すなど積極性が出ていた。
---	---

学び方3. (3)例題に何度も取り組み、解き方を覚える。(本時における手だて)	
◆例題を自分で作成させ、友達と解き合う時間を設定する。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ⑨ 「今日学んだことを生かして、漢字の組み合わせを記号で答える熟語クイズを作りましょう。」 ・クイズを交換し合う活動を入れた。	〔児童の姿・変容と考察など〕 ○例題作成のヒントとなる視点を示すと、自力で例題を作ることができ、友達に答えてもらう活動を楽しく行うことができた。ふりかえりカードでも高い自己評価であった。
◆同じ方法で解決できる例題を用意する。(第2/2時における手だて)	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ⑨ 「これから示す熟語は、どの仲間にあてはまるでしょう。」 ・提示用の熟語カードを見せる。	〔児童の姿・変容と考察など〕 ○教員に分類する際の視点を示してもらい、自力で分類する数を増やせた。同じやり方で解決できることが分かり、積極的に活動していた。
学び方3. (1)以前に取り組んだ問題については、解決の見通しをもつことができる。(第2/2時における手だて)	
◆何度も取り組んだことを活用でき、活用できたことを実感できるような学習場面を設定する。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ⑨ 「きまりにしたがって、ほかにもないか、考えたり調べたりしてみましょう。」 ・例示を基にして、作らせていく。	〔児童の姿・変容と考察など〕 ○漢字辞典を使った調べ方を指導してもらい、それを活用して「新」の付く熟語を作っていた。漢字辞典を活用するよさを知ったことが、自ら作っていかうとする姿勢につながったようであった。

② 具体的な手だてによる3つの学び方の変容

【3つの学び方の変容】

〈学び方1. 関連・発展〉

○新しいことを学習する際に既習事項を思い出すようにしたことで、その後の活動が主体的になった。ふりかえりカードによる自己評価でも、何をやるかを理解して取り組んでいたことが確認できた。

〈学び方2. 確認・改善〉

○何をやるのかが分かり、自力解決の方法を理解すると、それを応用して自ら学習を進めるようになった。さらに個別に対応したことが主体的な活動を高めたようであった。

〈学び方3. 練習・記憶〉

○例を活用すれば解決できることを学び、できたうれしさを味わえた。自己評価でも高い評価となった。学習に生かせる楽しさを生む有効な手だてであると思われる。

○児童B

① 具体的な手だての検証

(学び方1 (1)～3 (4)及び◆の内容は『やる気ぐんぐん! アドバイス 123』より)

学び方1. (3)新しいことを学習するときは、今までに学習したことを思い出す。(本時における手だて)	
◆既習事項を思い出すよう助言する。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ⑨ 「これらの熟語はどういう意味でしょう。また、漢字二文字がどのような関係で組み合わせられているでしょう。」	〔児童の姿・変容と考察など〕 ○ふりかえりカードでは、この学習場面はよく分かったという自己評価をしていた。黒板へ提示された資料にも注目し、既習事項と結びつけて考えているようであった。

学び方2. (1)この学習で何を学ぶのかを理解する。(本時における手だて)	
◆単元を通して何を学ぶのか知らせる。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ⑨ 「今日は、二字熟語を中心に熟語がどのよ	〔児童の姿・変容と考察など〕 ○ふりかえりカードからは、本時のめあてが確認で

<p>うな漢字の組み合わせでできているのか、ということについて学習していきます。」 ・本時の学習のめあてを話した。</p>	<p>きていたことが分かった。黒板に提示した熟語のカードも何を学ぶのか理解させるのに効果的であったと考える。</p>
<p>学び方2. (4)分からないことがあったときは、自分で調べて解決する。(本時における手だて)</p>	
<p>◆自力解決を行うための基本的な技能を身に付けさせる。</p>	
<p>〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ◎「これから示す二字熟語を漢字辞典を使って調べてみましょう。発表するときは、そのように分類したわけも説明してください。」 ・グループごとに熟語カードを準備した。 ・一人一冊漢字辞典を持たせるようにした。</p>	<p>〔児童の姿・変容と考察など〕 ○漢字辞典を引いて調べていくことがあまりできていなかった。漢字辞典の引き方において個別に対応することが必要であると思われた。 ○グループでの話し合い活動では積極的に分類をし、自力で解決している姿が見られ、意欲的に活動を行っていた。</p>
<p>学び方3. (3)例題に何度も取り組み、解き方を覚える。(本時における手だて)</p>	
<p>◆例題を自分で作成させ、友達と解き合う時間を設定する。</p>	
<p>〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ◎「今日学んだことを生かして漢字の組み合わせを記号で答える熟語クイズを作りましょう。」 ・クイズを交換し合う活動を入れた。</p>	<p>〔児童の姿・変容と考察など〕 ○多くの友達と積極的にかかわり、自ら作った熟語のクイズを解いてもらっていた。ふりかえりカードでもとても楽しかったという自己評価をしていた。</p>
<p>◆同じ方法で解決できる例題を用意する。(第2/2時における手だて)</p>	
<p>〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ◎「これから示す熟語は、どの仲間にあてはまるでしょう。」 ・提示用の熟語カードを見せる。</p>	<p>〔児童の姿・変容と考察など〕 ○挙手をして発言する姿があった。解決の見通しがもてたことがそれにつながったようである。とても楽しかったという自己評価であった。</p>
<p>学び方3. (1)以前に取り組んだ問題については、解決の見通しをもつことができる。(第2/2時における手だて)</p>	
<p>◆何度も取り組んだことを活用でき、活用できたことを実感できるような学習場面を設定する。</p>	
<p>〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉 ◎「きまりにしたがって、ほかにもないか、考えたり調べたりしてみましょう。」 ・例示を基にして、作らせていく。</p>	<p>〔児童の姿・変容と考察など〕 ○すでにやったことを活用すればよいということが分かり、進んで解決しようとしていた。とても楽しくできていたことがふりかえりカードからも分かった。</p>

② 具体的な手だてによる3つの学び方の変容

【3つの学び方の変容】

〈学び方1. 関連・発展〉

○熟語カードなどの具体物を使って既習事項を活用することを示したことで、自信をもって学習を進めることができたことが、ふりかえりカードの自己評価からも分かった。

〈学び方2. 確認・改善〉

○漢字辞典を活用するよさを、学習活動を通して知ることができた。そのため、辞典を引くという学習技能を高めていこうという新たな目標をもつことができた。

〈学び方3. 練習・記憶〉

○例題を使って熟語を作っていく活動に大変意欲的であった。学習内容重視傾向の児童に対しては、解決の仕方を理解させる発問や助言を行うと、さらにできるようになりたいという意欲が高まることが分かり、手だては有効と思われる。

2 算数・数学科の事例

(1) 具体的な手だてを盛り込んだ学習展開例

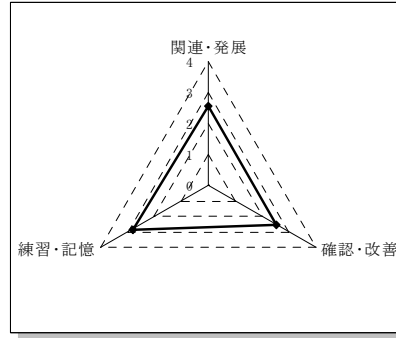
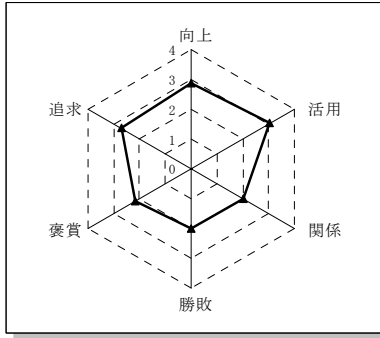
小学校第5学年算数『図形の角のひみつを調べよう』（5時間扱い）
 単元のねらい○算数的活動を通して、多角形の内角の和について理解する。
 ○基本的な図形の性質を見だし、調べることができる。

「やる気ぐんぐん！ アドバイス 123」から、 具体的な手だてを盛り込む。	本時の目標 (第4/5時)	○多角形について知り、多角形の内角の和は三角形に分割して求められることを理解する。		「やる気ぐんぐん！ アドバイス 123」の手だてから場面に合う発問を考える。	
学習活動		□指導上の留意点	評価規準		
学び方2. (1) この学習で何を学ぶのかを理解する。 →◆授業の冒頭で、今日の学習のめあてを確認する。	1. 本時の課題を知る。 2. 五角形・六角形の定義を知る。 ○五角形：5本の直線で囲まれた図形 ○六角形：6本の直線で囲まれた図形	<input type="checkbox"/> 一斉 □五角形、六角形を提示する。 <input type="checkbox"/> 一斉 □五角形を見ながら、性質について調べていき、角はどうなっているのだろうという追求意識をもたせる。 □多角形は直線だけで囲まれた図形であるということをおさえる。		これらの図形について、角の大きさの和を工夫して調べましょう。 [学び方2. (1)]	
	3. 五角形や六角形の内角の和を工夫して調べる。	<input type="checkbox"/> 個別 □対角線を引いて図形を分割するという方法が見いだせない児童には、三角形を基に考えていけば解決できそうだという見通しをもたせ、七角形や八角形への解決意欲へつなげる。 □三角形に分割して考えることができる児童については、さまざまな線の引き方をしてみるよう促し、それぞれの場合何度になったかを確認させる。		これまでに学習したことを使って解決しましょう。 [学び方1. (3)]	
学び方1. (3) 新しいことを学習するときは、今までに学習したことを思い出す。 →◆既習事項を思い出すよう助言する。				四角形の角の大きさの和は、どのように求めたか覚えていますか。 [学び方1. (3)]	
	4. 四角形、五角形、六角形…で1つの頂点から対角線を引くことで何個の三角形に分かれるかを調べ、その結果を表にまとめ、気付いたことを話し合う。	<input type="checkbox"/> 一斉 □分けてできる三角形の数が1ずつ増えていることに注目させる。		四角形の内角の和を求めるときに、どこに注意して考えたか覚えていますか。 [学び方1. (3)]	
学び方1. (3) 新しいことを学習するときは、今までに学習したことを思い出す。 →◆既習事項を生かせば解決できる課題や問題を提示する。				この問題でも、同じ方法できているかどうか確かめながら進めてください。 [学び方3. (1)]	
学び方3. (1) 以前に取り組んだ問題については、解決の見通しをもつことができる。 →◆同じ方法で解決できる例題に繰り返し取り組ませる。	5. 適用問題を解決する。 6. 多角形の角の和の求め方についてまとめる。	<input type="checkbox"/> 個別 □机間指導を行い、四角形、五角形の場合を生かして解決するよう促す。 <input type="checkbox"/> 一斉 □どんな多角形でも三角形に分けて考えることができる。 □なるべく児童から出された言葉でまとめる。	知識・理解 多角形の内角の和は、三角形に分割することによって求められることを理解する。		
	7. ふりかえりカードを書く。				
評価 ○数量や図形についての知識・理解：多角形の内角の和について理解する。					

他者・条件重視の学ぶ意欲に対する配慮事項

自らの進歩を実感させ、次の課題に気付かせる。

(2) 「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」による調査結果で得られた学級全体の傾向



<現状のとらえ>

学ぶ意欲は「学習内容重視」の傾向が見られ、学び方は3つがそれぞれに身に付いてきていると考えられる。

<レーダーチャートから見た必要と思われる手だて>

- ・ 学習内容重視の傾向をさらにはぐくむことができるよう、分かる楽しさや、上達した喜び、学習したことが他の場面でも生かせることが実感できるような活動場面などを工夫することが大切である。
- ・ 3つの学び方をより確実に身に付けさせるために、学習課題の解決に既習事項を活用するよう促したり、技能を高めるための自己解決の場面を設定したりすることなどが大切である。

(3) 授業記録による分析・考察(本単元全5時間分の授業記録より)

○児童A

① 具体的な手だての検証

(学び方1(1)～3(4)及び◆の内容は『やる気ぐんぐん!アドバイス123』より)

<p>学び方1.(1) 一つの方法で問題が解けても、他にも解き方がないかどうかを考える。 (第1/5時における手だて)</p>	
<p>◆いろいろな視点で考えるよう促す。</p>	
<p>[教員からの発問、助言など] (○字は発問、助言) ◎「ほかにも気付いたことはありませんか。」</p>	<p>[児童の姿・変容と考察など] ○何度か声に出して答えていたので、「黒板の図形で説明してくれますか」と促すと、すぐ前に出て図形を示しながら答えることができた。</p>
<p>学び方1.(3) 新しいことを学習するときは、今までに学習したことを思い出す。 (本時における手だて)</p>	
<p>◆既習事項を思い出すよう助言する。</p>	
<p>[教員からの発問、助言など] (○字は発問、助言) ◎「これまでに学習したことを使って、解決しましょう。」 ◎「四角形の角の大きさの和は、どのように求めたか覚えていますか。」 ◎「前の時間にやったやり方は、生かせませんか。」 ・ノートに書くだけでは難しい場合は、画用紙を切って考えてもよいことを伝える。</p>	<p>[児童の姿・変容と考察など] ○前時に、画用紙を切り取りながら内角の和を調べたことを思い出し、それを活用して答えを見つけようとしていた。 ○友達の見意によく反応し、既習事項を思い出した様子だった。 ○「自分で作った六角形なんだけど」と教えにきたので、「あとで友達にも紹介しようね」と活動内容を認める言葉かけをした。</p>
<p>◆既習事項を生かせば解決できる課題や問題を提示する。</p>	
<p>[教員からの発問、助言など] (○字は発問、助言) ◎「四角形の内角の和を求めるときに、どこに注意して考えたか覚えていますか。」</p>	<p>[児童の姿・変容と考察など] ○表に数字を書き込んだり友達発言を聞いたりしながら、既習事項を思い出した様子で、図形をノートに書いていた。 ○きまりを見いだして、発言することができた。</p>

学び方2. (1) この学習で何を学ぶのかを理解する。(本時における手だて)	
◆授業の冒頭で、今日の学習のめあてを確認する。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉	〔児童の姿・変容と考察など〕
⑩「これらの図形について、角の大きさの和を工夫して調べましょう。」 ⑪「多角形とはどんな形か知っていますか。」	○辺や角の数に注意を向けさせることで、前時までに学習したことを思い出し、工夫したいことを思いついた様子だった。
学び方2. (2) 前に学習したことを覚えているかどうかを確認する。(第2/5時における手だて)	
◆授業の冒頭で、既習事項に関する発問や確認を行う。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉	〔児童の姿・変容と考察など〕
⑩「昨日はどんな学習をしましたか。思い出してみましよう。」 ・友達が回答するたびに、内容を覚えていたかどうかを確認し、学習に参加できるように促した。	○発問に対して、友達の回答を気にかけてたりつぶやいたりしていた。挙手はしないが、つぶやきながら反応しているので、既習事項は思い出せている様子だった。

学び方3. (1) 以前に取り組んだ問題については、解決の見通しをもつことができる。(本時における手だて)	
◆同じ方法で解決できる例題に繰り返し取り組ませる。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉	〔児童の姿・変容と考察など〕
⑩「この問題でも、同じ方法でできているかどうか確かめながら進めてください。」	○解決した適用問題の考え方を説明させることで、やり方を確認しながら学習を進めていくことができるようになってきた。

② 具体的な手だてによる3つの学び方の変容

【3つの学び方の変容】
<学び方1. 関連・発展> ○覚えている数式だけではなく、既習事項と関連付けたり、既習事項を生かしたりすれば、課題を解決することに気付き、積極的に学習へ取り組むようになっていった。 <学び方2. 確認・改善> ○図形の操作場面で試行錯誤することを通し、以前の学習内容を振り返ることで自分が知っている数式の意味が理解でき、学習内容に楽しさを感じることができるようになってきた。 <学び方3. 練習・記憶> ○同じ方法で解決できる例題には、既習事項を確認しながら取り組むことができるようになってきた。技能が高まったことへの満足感も、もつことができるようになってきた。

○児童B

① 具体的な手だての検証

(学び方1 (1)～3 (4)及び◆の内容は『やる気ぐんぐん！アドバイス 123』より)

学び方1. (1) 一つの方法で問題が解けても、他にも解き方がないかどうかを考える。(第1/5時における手だて)	
◆いろいろな視点で考えるよう促す。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉	〔児童の姿・変容と考察など〕
⑩「ほかにも気付くことはありませんか。」 ⑪「自分で考えたことがあったら何でもいいから発表してください。」	○友達の見解によく反応し、自分でもいろいろな方法を見つけ出そうとする様子が見られた。
学び方1. (3) 新しいことを学習するときは、今までに学習したことを思い出す。(第3/5時における手だて)	
◆既習事項を思い出すよう助言する。	
〔教員からの発問、助言など〕〈○字は発問、助言〉	〔児童の姿・変容と考察など〕

<p>⑨ 「今やった三角形の問題を思い出して、考えてみましょう。」</p>	<p>○板書やノートを見て既習事項を思い出すことができたようだった。そのあと、挙手をして答えることができた。</p>
<p>⑩ 「三角形の3つの和は180°という決まりは生かせませんか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間しっかりノートをとっていたので、「前にやったこと」がノートに書かれていることに気付かせた。 ・画用紙を切って考えてもよいことを伝える。 	<p>○友達の回答にうなずきながら、自分のノートでも内容の確認をしていた。</p>
<p>◆既習事項を生かせば解決できる課題や問題を提示する。(第1/5時における手だて)</p>	
<p>〔教員からの発問、助言など〕(○字は発問、助言)</p>	<p>〔児童の姿・変容と考察など〕</p>
<p>⑨ 「直線ということは、角度はどれくらいになりますか。」</p>	<p>○ノートに三角定規をそのまま写し取り、角度を書き込んで既習事項を確認していた。活動内容が分かると、積極的に活動するようになった。</p>
<p>⑩ 先ほど使った三角形の3つの内角の和はどうかと思いますか。</p>	

<p>学び方2. (1) この学習で何を学ぶのかを理解する。(第1/5時における手だて)</p>	
<p>◆授業の冒頭で、今日の学習のめあてを確認する。</p>	
<p>〔教員からの発問、助言など〕(○字は発問、助言)</p>	<p>〔児童の姿・変容と考察など〕</p>
<p>⑨ 「今日の学習では、三角形の角について調べます。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角定規、分度器を使って調べることを伝える。 	<p>○「三角定規、分度器を使う」という具体的な助言で活動する内容が分かったようである。いわれるとすぐに三角定規の角を分度器で測り始めていた。三角形を書いて角度を書き写しながらも、挙手をしていた。</p>
<p>学び方2. (2) 前に学習したことを覚えているかどうかを確認する。(第2/5時における手だて)</p>	
<p>◆授業の冒頭で、既習事項に関する発問や確認を行う。</p>	
<p>〔教員からの発問、助言など〕(○字は発問、助言)</p>	<p>〔児童の姿・変容と考察など〕</p>
<p>⑨ 「昨日はどんな学習をしましたか。思い出してみましょう。」</p>	<p>○昨日書いたノートを見直して、確認してから挙手をしていた。友達の回答を聞いて大きくうなずいていた。</p>
<p>⑩ 「気付いたことでもいいですよ。」</p>	

<p>学び3. (1) 以前取り組んだ問題については、解決の見通しをもつことができる。 (第5/5時における手だて)</p>	
<p>◆同じ方法で解決できる例題に繰り返し取り組ませる。</p>	
<p>〔教員からの発問、助言など〕(○字は発問、助言)</p>	<p>〔児童の姿・変容と考察など〕</p>
<p>⑨ 「この問題も、同じ方法でできるか確かめながら進めてください。」</p>	<p>○既習事項を質問して確認させると、思い出した様子で、前にやった問題にもう一度戻ってやり直していた。</p>

② 具体的な手だてによる3つの学び方の変容

【3つの学び方の変容】

<学び方1. 関連・発展>

○考え方の視点を具体的に例示することで、活動内容が理解できたり活動に見通しをもつことができたりして、積極的に取り組む姿が見られた。いろいろな方法でやろうとする意欲的な姿勢がみられるようになった。

<学び方2. 確認・改善>

○学習を振り返るために、板書やノートで既習事項を確認することができるようになってきた。そのことによって、前の時間に理解できなかったことが、分かるようになっていった。

<学び方3. 練習・記憶>

○同じ方法で解決できる例題を解くことで、既習事項が確認できたり、活用したりできることを実感していた。

Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

現在、児童・生徒の学力の向上を目指し、すべての学校で授業改善を図っていくことが求められている。しかし、各種調査の結果では、学力の中でも「学ぶ意欲の低下」や「学習習慣が身に付いていない」など、学習態度にかかわる点に課題があるとの指摘がある。

本研究では、学力向上のキーポイントとして、学ぶ意欲と学び方に着目し、学ぶ意欲と学び方の傾向把握とそれに基づく児童・生徒への指導の在り方について研究を深めた。

まず、基礎研究・調査研究を通して、児童・生徒の学ぶ意欲の傾向や学び方にはいくつかの類型があり、同時に、学ぶ意欲と学び方には密接な関係があることが分かった。また、教員はそれらの傾向を把握し、児童・生徒一人一人や学習集団の傾向に即した手だてを講ずることが重要であることが分かった。そこで、児童・生徒の学ぶ意欲や学び方の傾向を把握するための「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」(pp. 106-110)、学ぶ意欲の傾向を把握し、「学習内容重視」の学ぶ意欲へ高めながら、よりよい学び方を身に付けさせるための具体的な手だてと発問・助言例をまとめた「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」(pp. 111-115)を開発した。

学ぶ意欲については、「学習内容重視」の学ぶ意欲へと高めていくことが重要であり、そのためには、学ぶ意欲への配慮をしながら学び方を身に付けさせ、主体的に学び続ける力を育成することが大切であることが実践研究より明らかになった。また、学び方を身に付けさせていくためには、個に応じた指導や配慮を行うことが大切である。そのためには、まず、アンケートなどを活用し、一人一人の児童・生徒や学習集団全体の傾向を把握することが重要であり、その際には、本研究で開発した「学ぶ意欲と学び方の傾向把握質問紙」の活用が有効であると考えられる。さらに、児童・生徒や学習集団の学ぶ意欲や学び方の傾向を把握し、それに応じた具体的な手だてを行ったり、発問や助言の内容を工夫したりすることが、学び方を身に付けさせていくためには大切である。本研究で開発した「やる気ぐんぐん！アドバイス 123」の活用により、有効な手だてや傾向に応じた発問・助言を選ぶことができる。

また、これらの資料を活用し、指導の工夫を行うことにより、児童・生徒の学力向上を図ると同時に、日々の授業改善を図ることができると思う。

2 今後の課題

本研究では、「確かな学力」の基礎・基本<学ぶ意欲、学び方、知識・技能、思考力、判断力、表現力、課題発見能力、問題解決能力>(平成 15 年 10 月 文部科学省「〔確かな学力〕と〔豊かな心〕を子どもたちにはぐくむために・・・」より)のうち、学ぶ意欲と学び方の 2 つに焦点をあて、「学ぶ意欲を高め、よりよい学び方を身に付けさせるための授業改善資料の開発」を行った。

今後は、さらに児童・生徒の学力向上を図るために、他の 6 つ<知識・技能、思考力、判断力、表現力、課題発見能力、問題解決能力>について、どのような指導の工夫を行えば身に付けさせることができるのか研究を深めていくことが、必要であると思う。